

# 令和 2 年度 施策評価表

第 2 章 『子どもが大切にされるまち』										
まちづくりの目標	子どもたちが、地域の「絆」の中でしっかりと学び、健やかに育っていけるよう、家庭、地域、学校などがそれぞれの役割を果たし、一体となって子どもが大切にされるまちをめざします。									
分野別計画・指針	所沢市子ども・子育て支援事業計画(ところっこすくすくサポートプラン)、第2次所沢市ひとり親家庭等自立支援計画、第4次所沢市障害者支援計画(障害児福祉計画)、所沢市放課後子ども健全育成基本方針、第2次所沢市教育振興基本計画、第3次所沢市子どもの読書活動推進計画、所沢市いじめ防止基本方針									
第1節	子ども支援									
関係所属	こども支援課									
施策に対する市民満足度・要望度 (「令和元年度所沢市市民意識調査」の結果)※回答数:2,043人				満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度			
「子ども支援」 所沢市は子育て世帯への支援や相談窓口が充実している				399	19.5%	329	16.1%			
評価指標の達成状況	指標名			単位	(H29)現状値	R元年度目標値	R元年度実績	達成状況	R6年度目標値	
	こども支援センター(子育て支援)の利用者満足度			%	98.35	100	98.31	×	100	
事業目標の達成状況										
基本方針		事業目標			単位	(H29)現状値	R元年度目標値	R元年度実績	達成状況	R6年度目標値
2-1-1	子どもの育成支援の充実	こども支援センター(子育て支援)の利用者数			人	85,856	60,000	83,629	○	60,000
2-1-2	子育て家庭への支援の充実	ところっこ子育てサポート事業相談件数(基本型・特定型)			件	872	900	1,064	○	900
2-1-3	地域における子育て支援の充実	ファミリーサポート事業の年間利用件数			件	12,155	17,000	17,988	○	17,000
節の基本方針への取り組み状況										
◆ 前年度の取り組み状況に対する振り返り										
○ファミリーサポート事業については、地域における子育て支援の仕組みとして認識されてきたため、利用件数の増加につながった。										
○こども支援センター(子育て支援)では、発達支援エリアと併設している強みを生かし、心理士や言語聴覚士、作業療法士等の専門職と合同で行事や相談、子育て講座を実施するなど、こども支援センターが連携しながら、利用者への支援を図った。										
○ところっこ子育てサポートの相談件数は増加しており、子育ての相談や情報提供などニーズに応じた支援を行った。										
◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析										
○こども支援センターの利用者満足度については、複数回利用している方の調査結果は良好であるが、初めて利用した方の評価において「どちらでもない」と回答している傾向も散見されたため、目標未達成になったと考えられる。										
今後の方向性										
◆ 「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容										
○ファミリーサポート事業の利用のニーズが高まっていることから、今後も継続して実施するとともに援助会員数の確保を図るため、様々な機会を捉えて周知を行っていく。										
○ところっこ子育てサポート事業については、子育て世代包括支援センターかると連携し、妊娠期から子育て期まで切れ目のない支援の充実を図る。										
◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容										
○こども支援センターの利用者満足度については、目標値には達しなかったものの、高い評価をいただいたところである。今後も支援策の更なる充実を図り、満足度の向上を目指す。										

## SDGsへの貢献

レ	1 貧困をなくそう	レ	10 人や国の不平等をなくそう
	2 飢餓をゼロに	レ	11 住み続けられるまちづくりを
レ	3 すべての人に健康と福祉を		12 つくる責任 つかう責任
	4 質の高い教育をみんなに		13 気候変動に具体的な対策を
	5 ジェンダー平等を実現しよう		14 海の豊かさを守ろう
	6 安全な水とトイレを世界中に		15 陸の豊かさを守ろう
	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	レ	16 平和と公平をすべての人に
	8 働きがいも経済成長も		17 パートナーシップで目標を達成しよう
	9 産業と技術革新の基盤を作ろう		

評価日	R2.7.1	記入者職氏名	こども未来部こども支援担当参事 市来 広美
-----	--------	--------	-----------------------

第2節	子ども福祉							
関係所属	こども福祉課、こども支援課							
施策に対する市民満足度・要望度 （「令和元年度所沢市市民意識調査」の結果）※回答数：2,043人			満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度		
「子ども福祉」 所沢市は子どもの発達や虐待防止の相談・支援体制が整備されている			262	12.8%	266	13.0%		
評価指標の達成状況	指標名		単位	(H29)現状値	R元年度目標値	R元年度実績	達成状況	R6年度目標値
	こども支援センター(発達支援)の利用者満足度		%	93	100	89.8	×	100
事業目標の達成状況								
基本方針		事業目標	単位	(H29)現状値	R元年度目標値	R元年度実績	達成状況	R6年度目標値
2-2-1	障害児支援の充実	こども支援センター(発達支援)の利用者数	人	19,517	21,800	25,083	○	22,300
2-2-2	養育環境に配慮した支援の充実	児童家庭相談の件数	件	844	900	875	×	900
節の基本方針への取り組み状況								
◆ 前年度の取り組み状況に対する振り返り								
○児童家庭相談においては、子どもや家庭に関する様々な相談に対応し、状況に応じて継続的な支援を行った。 ○ひとり親家庭等から507件(令和元年度実績)もの新規相談があり、関連機関と連携し情報提供を行うなど、生活の安定と自立の支援の充実を図った。 ○こども支援センター(発達支援)では、発達障害に関する相談支援のほか、研修や啓発事業等の地域支援、児童福祉法に基づく児童発達支援を実施した。また、心理士や言語聴覚士、作業療法士等の専門職が、併設する子育て支援エリアにおいて、各種相談や子育て講座を実施するなど、こども支援センター(子育て支援)とが連携しながら子育て支援を図った。								
◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析								
○児童家庭相談においては、子どもの発達や障害に関する相談が減少したが、これは、こども支援センター発達支援エリアでの相談が周知されたものと考えられる。 ○こども支援センター(発達支援)の利用者満足度については、「子どもの特性に応じた支援が受けられる」や、「相談がし易くアドバイスが適切」といった評価をいただいている一方で、相談支援の利用者の増加により、「新規相談を開始するまでに時間を要した」や、「希望どおりの日程で相談ができなかった」等、希望に添えない状況もあったため目標未達成となったと考えられる。								
今後の方向性								
◆ 「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容								
○児童家庭相談については、引き続き、電話や窓口、メールで子どもに関する様々な相談に対応し、支援の充実を図っていく。 ○ひとり親家庭の相談については、生活の安定と自立を支援するため、より丁寧な対応に努め、更なる充実を図る。 ○本市の障害福祉施策の基本方針と施策展開の方向性を示す「第5次障害者支援計画(障害児福祉計画)」の策定を行う。 ○医療的ケア児の受入れ支援を図るため、医療的ケア児を受入れている児童発達支援事業所及び放課後等デイサービス事業所に対して、通所支援に必要な設備や備品の購入費用の補助を行う医療的ケア児支援体制整備事業を実施する。								
◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容								
○児童家庭相談においては、様々な機会を通じて周知を行い、相談しやすい環境作りを努める。 ○こども支援センター(発達支援)では、相談員の増員等人員体制を整えるとともに、職員研修を継続的に実施し支援の質の向上を図る。また、専門的知見から適切なアセスメントを行い、保護者の不安軽減と子どもの発達支援を行っていく。								
SDGsへの貢献								
レ	1 貧困をなくそう	レ	10 人や国の不平等をなくそう					
	2 飢餓をゼロに	レ	11 住み続けられるまちづくりを					
レ	3 すべての人に健康と福祉を		12 つくる責任 つかう責任					
	4 質の高い教育をみんなに		13 気候変動に具体的な対策を					
	5 ジェンダー平等を実現しよう		14 海の豊かさを守ろう					
	6 安全な水とトイレを世界中に		15 陸の豊かさを守ろう					
	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	レ	16 平和と公平をすべての人に					
	8 働きがいも経済成長も		17 パートナースhipで目標を達成しよう					
	9 産業と技術革新の基盤を作ろう							
評価日	R2.7.1	記入者職氏名	こども未来部次長 内野 孝雄 こども未来部こども支援担当参事 市来 広美					

第3節	子育て環境							
関係所属	こども政策課、保育幼稚園課、青少年課							
施策に対する市民満足度・要望度 （「令和元年度所沢市市民意識調査」の結果）※回答数：2,043人			満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度		
「子育て環境」 幼稚園・保育園などや放課後児童クラブが充実している			448	21.9%	332	16.3%		
評価指標の達成状況	指標名		単位	(H29)現状値	R元年度目標値	R元年度実績	達成状況	R6年度目標値
	就学前児童の保育待機児童数		人	26	10	14	×	0
事業目標の達成状況								
基本方針		事業目標	単位	(H29)現状値	R元年度目標値	R元年度実績	達成状況	R6年度目標値
2-3-1	幼児教育の支援	幼稚園型一時預かり事業の利用者数	人	104,651	104,700	120,121	○	105,000
2-3-2	就学前児童の保育の充実	就学前児童の保育施設の利用者数	人	5,572	5,900	5,884	×	6,000
2-3-3	放課後児童クラブの充実	放課後児童クラブの利用者数	人	2,250	2,458	2,323	×	2,458
節の基本方針への取り組み状況								
◆ 前年度の取り組み状況に対する振り返り ○幼稚園の認定こども園移行による保育定員増を見込んでいたが、園都合により取りやめとなった。この代替措置として、既存施設（地域型保育事業所・認定こども園）を中心に保育定員を48人分拡大した。 ○保育を必要とする児童を幼稚園で預かってもらうため、幼稚園型一時預かり事業及び幼稚園預かり保育補助事業を実施した。 ○こぼと、つばき、わかば、すみれ児童館生活クラブの定員拡大のほか、民設民営児童クラブを2施設を新設することにより、合計152人分の新たな定員の確保を図った。								
◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析 ○代替措置が当初の整備予定（認定こども園移行）を下回ったため、「保育施設の利用者数」「保育待機児童数」ともに未達成となったと考えられる。 ○施設整備は計画どおり実施したものの、目標の達成は令和4年度としている。また、椿峰児童クラブの用地返還による代替施設への移転により、施設の床面積が減少したことなども影響したと思われる。								
今後の方向性								
◆ 「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容 ○子ども・子育て支援事業計画に基づき、保育定員の確保を図る。 ○令和元年10月から実施された幼児教育・保育無償化を受け、幼稚園における預かり保育を幼稚園型一時預かり事業に一本化するとともに、長期休業日の預かり実施に伴う事業者の負担軽減を拡充する。 ○さまざまな手段により定員の拡大を図り、児童の居場所づくりを進めるとともに、放課後支援員の確保や研修の充実、施設のモニタリングを通じて、放課後児童クラブの向上を図る。								
◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容 ○引き続き、既存施設の活用を中心に、保育定員の確保を図る。 ○放課後児童クラブの施設整備を進めるため、教育委員会との連携を図ることや、民設民営児童クラブの設置などにより、定員拡大を図り必要なサービスの量の確保に努める。								
SDGsへの貢献								
レ	1 貧困をなくそう			10 人や国の不平等をなくそう				
	2 飢餓をゼロに	レ	11 住み続けられるまちづくりを					
レ	3 すべての人に健康と福祉を			12 つくる責任 つかう責任				
レ	4 質の高い教育をみんなに			13 気候変動に具体的な対策を				
	5 ジェンダー平等を実現しよう			14 海の豊かさを守ろう				
	6 安全な水とトイレを世界中に			15 陸の豊かさを守ろう				
	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	レ	16 平和と公平をすべての人に					
	8 働きがいも経済成長も			17 パートナースhipで目標を達成しよう				
	9 産業と技術革新の基盤を作ろう							
評価日	R2.7.1	記入者職氏名	こども未来部次長 内野 孝雄					

第4節	青少年健全育成								
関係所属	青少年課、社会教育課								
施策に対する市民満足度・要望度 （「令和元年度所沢市市民意識調査」の結果）※回答数：2,043人			満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度			
「青少年健全育成」 所沢市は青少年が健全に育つ環境が整備されている			328	16.1%	157	7.7%			
評価指標の達成状況	指標名		単位	(H29)現状値	R元年度目標値	R元年度実績	達成状況	R6年度目標値	
	青少年健全育成に関する施策の満足度		%	28.0	28.5	16	×	31.0	
事業目標の達成状況									
基本方針		事業目標		単位	(H29)現状値	R元年度目標値	R元年度実績	達成状況	R6年度目標値
2-4-1	家庭・地域・学校みんなで青少年の健全育成	「三つ葉の提言」の配布数		件	3,353	3,400	3,683	○	3,500
2-4-2	青少年健全育成の支援	児童館利用者数		千人	364.9	現状値以上	342,861	×	現状値以上
2-4-3	青少年の教育及び体験活動の充実	所沢こどもルネサンス事業参加率		%	27	27.5	22.5	×	30
節の基本方針への取り組み状況									
◆ 前年度の取り組み状況に対する振り返り									
○「三つ葉の提言」の普及を図るため、市内児童館にてボランティアを中心に普及活動を行った。									
○新型コロナウイルス感染症の流行により、児童館の利用者数に影響が大きい、一般来館や生活クラブの利用制限を行った。									
○こどもルネサンス事業をはじめ、青少年の様々な体験活動の充実に努めるとともに、活動団体を支援した。									
◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析									
○児童館の利用者数の目標が達成できなかった理由としては、新型コロナウイルス感染症の感染予防のため、令和2年2月下旬から児童館の一般来館や生活クラブの利用自粛を徹底したことが影響した。									
○こどもルネサンス事業は、市民文化センターMUSEの施設改修や新型コロナウイルスに伴う事業中止により、例年よりも事業数が減じたため目標値を下回った。									
今後の方向性									
◆ 「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容									
○青少年の健全育成を図るため、家庭・地域・学校が、それぞれの役割を再認識するため、「三つ葉の提言」の普及を進める。									
○市内児童館や青少年育成所沢市民会議などの活動を支援することで、青少年の健全育成を図っていく。									
○学校教育以外の場で青少年が様々な体験をし成長できるよう、今後も体験活動の充実と活動団体の継続的な支援に努める。									
◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容									
○今後の児童館運営に関して、新型コロナウイルス感染症に向い合う「新しい生活様式」に基づく運営に改めることで、安心・安全に児童館を利用できるようにしていく。									
○新型コロナウイルス感染防止を図りながら、青少年の成長につながる体験活動の場が設けられるよう、事業実施の手法を模索していく。									
SDGsへの貢献									
1	貧困をなくそう	レ	10	人や国の不平等をなくそう					
2	飢餓をゼロに	レ	11	住み続けられるまちづくりを					
レ	3	すべての人に健康と福祉を	レ	12	つくる責任	つかう責任			
レ	4	質の高い教育をみんなに	レ	13	気候変動に具体的な対策を				
5	ジェンダー平等を実現しよう	レ	14	海の豊かさを守ろう					
6	安全な水とトイレを世界中に	レ	15	陸の豊かさを守ろう					
7	エネルギーをみんなにそしてクリーンに	レ	16	平和と公平をすべての人に					
8	働きがいも経済成長も		17	パートナーシップで目標を達成しよう					
9	産業と技術革新の基盤を作ろう								
評価日	R2.7.10	記入者職氏名	こども未来部次長 内野 孝雄 教育総務部次長 市川 雅美						

第5節	学校教育
関係所属	学校教育課、保健給食課、スポーツ振興課、教育施設課、教育センター、経営企画課

施策に対する市民満足度・要望度 (「令和元年度所沢市市民意識調査」の結果)※回答数:2,043人	満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度
「学校教育」 所沢市の小中学校は学びの環境が整備されている	492	24.1%	303	14.8%

評価指標の達成状況	指標名	単位	(H29)現状値	R元年度目標値	R元年度実績	達成状況	R6年度目標値
	埼玉県学力・学習状況調査における学力レベルの伸び	レベル	2	2	2.0	○	2

基本方針		事業目標	単位	(H29)現状値	R元年度目標値	R元年度実績	達成状況	R6年度目標値
2-5-1	確かな学力と自立する力の育成	学力向上推進事業における研究委託校数	校	20	現状維持	20	○	現状維持
2-5-2	豊かな心の育成	いじめ解消率の小・中の割合	%	51.2	60	43	×	65
2-5-3	地域が信頼する学校づくりの推進	特色ある学校づくり支援事業で活用した地域人材の人数	人	5,603	6,110	5,783	×	6,110
2-5-4	健やかな体の育成	学校給食センターの再整備	—	調査	調査	調査	○	運営
2-5-4	健やかな体の育成	学校給食における残食率	%	6.3	7	5.7	○	7
2-5-4	健やかな体の育成	体力テストにおける上位ランクの生徒の割合(中学校)	%	87.9	88.2	87.3	×	89.2
2-5-5	学校環境整備の推進	学校トイレの洋式化率	%	35	41	44	○	56
2-5-6	学習環境の整備	市内小中学校における電子黒板の導入割合	%	17	24	24	○	50
2-5-7	教育環境の充実	特色ある私立学校の誘致	—	推進	推進	推進	○	推進

### 節の基本方針への取り組み状況

- ◆ 前年度の取り組み状況に対する振り返り
  - 命にかかると重大事案の発生を重く受け止め、教職員の研修および子どもの自己肯定感の醸成に最重点を置いて取り組んだ。いじめの防止についても、所沢市いじめ防止基本方針を改訂するとともに、いじめの早期発見、早期対応、早期解消に努めた。
  - 「学び創造アクティブプラン学力向上支援事業(3年次)」を推進し、学校・家庭・地域が一体となって子どもを育む取り組みの充実を図った。
  - 市立小・中学校、幼稚園において、工夫を凝らし、地域の教育力を借りて地域の文化が子どもの成長に繋がっていく教育活動の展開を図った。
  - トイレ改修や暑さ対策としての空調設備の整備など学校環境の改善を図ることができた。
  - 老朽化した校舎等について計画的に改修を実施した。
  - ポータブル型の電子黒板を小学3校、中学校2校に各3台ずつ試行的に導入し、活用状況を検証することができた。
  - 試行的に導入した学校では、学習教員としてICT機器を活用した授業実践が複数見られるようになった。
  - 各種教室(縄跳び・鉄棒・水泳)の実施形態の改善を図るとともに、学校でも活用できるような運動や取り組みを研究し、周知することができた。
  - 私立学校の誘致に必要な手続き等について県をはじめとする関係各所と調整を進めた。
- ◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析
  - いじめの解消率については、早期の段階での認知と長期的に見届けての解消判断によるという側面も考えられるが、解消率を向上していけるよう今後も課題として取り組んでいく。地域人材の活用については、目標値には届いていないものの、実績は向上しており、各学校では効果的な活動が展開されている。
  - 体力テストの結果は、昨年度まで穏やかに数値が上昇していたが、本年度は県とともに数値が低下した。
  - 子供達が生活をする上で、SNSの利用時間が増加するに伴って、運動する時間が減少している。

## 今後の方向性

### ◆「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容

- 引き続き、子どもたちの豊かな心の育成・自己肯定感の醸成に重点を置いて、子ども理解・心の育成に係る教職員研修の充実を図る。同時に、令和2年度からスタートした学力向上推進事業「学び創造アクティブPLUS」においても、取り組みの柱に据え、全ての教育活動を通して子どもの自己肯定感の醸成に努めていく。
- 学力向上推進事業「学び創造アクティブPLUS」では、特色ある学校づくりとも関連づけ、コロナ禍にあっても創意工夫して、引き続き学校・家庭・地域が一体となって、一層主体的・対話的で深い学びを創造していく。
- 「学校トイレ改修事業」については、整備方針のとおり屋内運動場のトイレ改修を含め、計画的に進めることにより学校環境の改善を図る。
- 山口中学校の既存擁壁について、災害防止の観点から安全性を高めるための改修及び補修工事を行う。
- 子どもたちの個性に応じて多様な教育を選択できる環境を創出するため、引き続き特色ある私立学校の誘致を推進する。
- 学校給食センターの再整備 について、今年度の実施方針を公表し、PFI手法による事業の契約に向けて取り組む。
- 各種教室や取り組みに、より多くの児童生徒に参加してもらい、運動に親しむ機会を提供できるよう工夫する。
- 「みんなで伸ばそう、所沢市の子ども体力を」を合言葉に、子どもの体力向上と合わせて、運動好きな児童生徒の育成を積極的に展開する。
- 「GIGAスクール構想の実現」のため、児童生徒に1人1台の学習者用コンピュータを導入するに際し、効果的な学習指導において大型提示装置についても必要となるため、今後は電子黒板に代え、液晶ディスプレイを普通教室等に各1台整備する。

### ◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容

- いじめ、不登校などの課題に対応するために、教員に加え、学校に配置している心のふれあい相談員、心理士や学校教育相談員、スクールカウンセラーによる相談活動を充実させていく。また、「いじめ問題対策委員会」との連携を図り、いじめや不登校の未然防止・早期発見・早期対応を進め、児童生徒の健やかな成長を支える。
- 一人一人が体力数値の伸びを実感するとともに、課題をしっかりと把握することで、明確な目標を持ち、さらに運動に取り組むことができるよう「トころんのびのび実感シート(仮)」を作成し、各学校へ紹介し、配布した。

## SDGsへの貢献

1 貧困をなくそう	レ	10 人や国の不平等をなくそう
2 飢餓をゼロに		11 住み続けられるまちづくりを
レ 3 すべての人に健康と福祉を		12 つくる責任 つかう責任
レ 4 質の高い教育をみんなに		13 気候変動に具体的な対策を
レ 5 ジェンダー平等を実現しよう		14 海の豊かさを守ろう
レ 6 安全な水とトイレを世界中に		15 陸の豊かさを守ろう
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	レ	16 平和と公平をすべての人に
8 働きがいも経済成長も		17 パートナリシップで目標を達成しよう
9 産業と技術革新の基盤を作ろう		

評価日	R2.7.31	記入者職氏名	経営企画部経営企画担当参事 市川 勝也 教育総務部次長 市川 雅美 教育総務部教育施設担当参事 森田 幸夫 学校教育部次長 関根 祐一 学校教育部保健給食担当参事 池田 隆人 学校教育部教育センター担当参事 長谷川 陽子
-----	---------	--------	---